第３章　基本方針・目指す姿

１　基本方針

① 体験型・交流型要素を取り入れた着地型観光の推進

観光旅行は人々の価値観やライフスタイルの多様化に伴い、物見遊山的な「ものの豊かさ」を実感する観光から「心の豊かさ」が実感できるような体験型・交流型の観光へ移行してきています。

そこで、現存する地域固有の観光資源を保存・活用しながら、体験型・交流型の要素を取り入れた観光の形態へ対応していくことで、多くの観光客を獲得し、稼げる観光を目指します。

② 観光客に選ばれ続けるため、オンリーワンの魅力を発信

現在、全国的に定住人口の減少や少子高齢化が叫ばれるなか、観光振興を図り交流人口を増加させることが地域活性化の切り札と期待されています。全国どの市町村も交流人口を獲得しようと観光に力を入れています。

交流人口獲得のため地域間競争が激化しているなか、観光客に愛荘町を選んでいただくためには、「愛荘町にしかない魅力」を発信、提供しなければなりません。

愛荘町は魅力ある地域資源に恵まれています。その資源を掘り起こし、磨き上げるとともに、テーマ性・ストーリー性をもって広域連携も視野に各観光地点をつなぐことで、独自の魅力を高める必要があります。

オンリーワンの魅力を発信、提供することで交流人口の増加を促し、観光客に魅力を「新発見」していただくことで移住促進も目指していきます。

③ 愛荘町の魅力を再発見・新発見

観光地としての愛荘町について、多くの住民は魅力を感じていないのが現状であり、住民が観光資源として認知していない状況で体験型・交流型の観光を展開したとしても、その効果は限定的にとどまると考えられます。

住民が現存する観光資源の理解を深め「再発見」するとともに、これまで観光という視点では捉えてこなかった資源を新たな観光資源として「新発見」することで愛着が生まれ、地域の誇りになり、自らの地域の自慢になっていきます。

多くの観光客に訪れてもらい、またリピーターとして訪れてもらうためには、観光協会や観光事業者、観光関連団体、行政だけでなく、地域全体で接することが必要です。住民が自らの地域を誇りに思うからこそ、それを観光客に伝えたい、楽しんでもらいたいという行動が生まれ、それが「おもてなしの心」として観光客に伝わっていきます。

観光地の印象は、地域の人との出会いや触れ合いにより大きく左右されるため、地域全体の「おもてなし意識の醸成」を図ることで、観光振興および定住促進へとつながることを目指します。

④ 観光ニーズに合った物産の開発と提供

観光客が旅の中で最も楽しみにしているのが「食」や「土産・特産品」です。観光客が非日常を味わうなかで「見たい」「食べたい」「買いたい」といった欲求に対して、満足度の向上に資する各種の物産を開発し、提供していくための施策を展開します。

以上の考え方から、愛荘町観光物産振興計画の基本方針を以下のとおりとします。

『愛荘町でこんにちは　愛荘の魅力　再発見･新発見』

～地域資源の価値を再発見し、新たな魅力を新発見することで交流を生み出す～

２　魅力を訴求するターゲット

愛荘町観光意識調査の結果を踏まえ、関西圏・東海圏にお住まいの方で、旅の決定権をもつ割合が高いとともに、情報発信力がある女性をターゲットに訴求活動を展開していきます。

◎主とする訴求ターゲット

関西圏・東海圏にお住まいの女性

３　観光振興の目標

愛荘町の観光振興の推進を図り、施策効果の検証を行うための目標として、以下の指標を設定します。

◎観光入込客数（延べ）

現状値　　：４０５，０００人　【２０１８年（平成３０年）】
目標値　　：４４６，０００人　【２０２４年（令和　６年）】
※１０％アップ

◎観光消費額

現状値　　：２４７，０６６，４３０円　【２０１８年（平成３０年）】
目標値　　：２７１，７７３，０７３円　【２０２４年（令和　６年）】
※１０％アップ

【観光消費額の計算方法】

・観光入込客数（実人数）＝観光入込客数（延べ）÷1.74 地点（観光客の県内での平均訪問地点数）
・観光入込客数（団体数）＝観光入込客数（実人数）　÷平均 3.4 人（同行人数）
・観光消費額＝観光入込客数（団体数）×平均 3,609 円（町内消費額）
※平成 29 年度愛荘町観光意識調査、平成 22 年滋賀県観光動態調査参照

◎愛荘町観光客１人あたりの町内消費額

現状値　　：平均３，６０９円　【２０１８年（平成３０年）】
目標値　　：平均３，８００円　【２０２４年（令和　６年）】※５％アップ

◎住民が「観光地として愛荘町に魅力を感じる」割合

現状値　　：　５．３％　【２０１８年（平成３０年）】
目標値　　：１５．３％　【２０２４年（令和　６年）】※１０％アップ

４　取組テーマ

前述の愛荘町観光の強みを更に伸ばしていき、「愛荘町ならではの良さ」を発揮する環境を整えるべく、以下の視点に基づき８つのテーマを選定しました。

愛荘町の宝（強み）

1. **鈴鹿山脈の清水がもたらした「自然景観」**
2. **鈴鹿山脈の清水が発展させた「伝統工芸・産業」**
3. **地域住民によって守り受け継がれてきた「歴史・文化風習」**
4. **車等によるアクセスを向上させた「湖東三山スマートインターチェンジ」**

など・・・

選定

視点１：愛荘町の独自性があり、他地域と差別化できること
視点２：自然や歴史、文化を大切にし、町民の生活と共存すること
視点３：観光の担い手として地域住民の協力を促すこと
視点４：観光資源の付加価値を高める可能性が高いこと
視点５：絵空事ではなく、計画期間内に実現可能性が高いこと

取組テーマ

テーマ①：宇曽川周辺の自然・水の利活用

テーマ②：産業・歴史文化の体験交流プラン造成

テーマ③：中山道周辺地域の再活性化

テーマ④：観光資源の価値の理解を深めるビジュアル重視の発信

テーマ⑤：ストーリー重視のワンチーム化

テーマ⑥：地域資源の魅力の住民への浸透

テーマ⑦：地域の歴史文化の伝導師育成

テーマ⑧：地域食材を利用した新しい特産品づくり

５　計画の体系

基本方針	基本方針の柱	主要施策（アクションプラン）
愛荘町でこんにちは　愛荘の魅力　再発見・新発見	Ⅰ　体験型・交流型要素を取り入れた着地型観光の推進	①宇曽川周辺の自然・水の利活用 ②産業・歴史文化の体験交流プラン造成 ③中山道周辺地域の再活性化
	Ⅱ　観光客に選ばれ続けるため、オンリーワンの魅力を発信	④観光資源の価値の理解を深めるビジュアル重視の発信 ⑤ストーリー重視のワンチーム化
	Ⅲ　愛荘町の魅力を再発見・新発見	⑥地域資源の魅力の住民への浸透 ⑦地域の歴史文化の伝導師育成
	Ⅳ　観光ニーズに合った物産の開発と提供	⑧地域食材を利用した新しい特産品づくり

受入環境整備・計画推進体制
１　観光客を誘導する案内表示の充実
２　歩行者空間・サイクリング空間の構築
３　二次交通や町内を周遊するアクセス手段の確保